

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2897600020		
法人名	株式会社 ニッケ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム てとてニッケタウン ダイア		
所在地	愛知県あま市甚目寺町桑丸8-1		
自己評価作成日	平成29年2月3日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397600020-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397600020-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

最低月1回の外出。市の文化展に出展。重度化に対応した機械浴設置。住みごちの良い床暖房。提携医との連携による看取り介護。平屋でフラットで段差がなく安心・安全に配慮。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、運営法人の親会社の毛織物工場の跡地につくられていることもあり、地域の方には知られた存在でも。ホームで行っているカフェの際には、地域の方の参加があり、ホームと地域の方との交流の機会につながっている。他にも、関連のデイサービスとの協力関係を深めており、デイサービスで行事が行われる際には、ホームからも利用者と参加し外出の機会につなげている。デイサービスで職員研修が行われる際には、ホームからも職員が参加しており、職員間の交流と資質向上に向けた取り組みが行われている。また、ホームのユニットが平面でつながっていることで、利用者が雨の日でもユニット間を移動することで体を動かす機会がつけられたり、落ち着かない方がいる際には、ユニット間に対応したりする等、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	照らし合わせ実践につなげている	法人の基本理念に基づくホームの理念がつけられており、毎日の朝礼の際に職員間で唱和を行っている。また、年度毎にホームで目標をつくる取り組みを行っており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	認知症カフェ開催や地域の作品展出展。地域のボランティアの触れ合い。	ホームは町内会に入り、近隣にある甚目寺観音の行事の際にはホームからも出かけ、地域の方とのつながりを継続している。また、ホームで行われているカフェには、地域の方の参加も得られている他、関連のデイサービスを通じた交流も行われている。	ホームも含め、工場跡地の敷地を借りているテナントと協力した感謝祭を予定している。様々な取り組みを通じて、地域の方との関係が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェ開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	皆様の意見を取り入れ改善に取り組んでいる。	会議の際には、ヒヤリハットの報告を加える等、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、複数の地域の方の参加が得られており、地域の方との情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	度々、電話や窓口で相談させて頂き協力を頂いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会に参加しており、情報交換につなげている他にも、ホームで開催しているカフェを通じた交流も行われている。また、市の福祉まつりに作品を出品する協力も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしている。身体拘束は研修を行い防止に取り組んでいる	ホーム内はユニット間の移動がじゆうにできる構造になっており、利用者の状態等に合わせたユニット間での連携が対応が可能である。また、関連のデイサービスとの研修会の機会がつけられており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束とともに虐待防止の研修を行い、防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人や保佐人が付いている方がおり、常に接している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご理解頂けるようそのつど質問はないか丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて意見を取り入れ反映させるよう努めている。	ホームでは、家族との交流会の機会がつけられており、多くの家族の参加が得られている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも法人担当部署を通じた対応も行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングにて職員の意見を充分に取り入れている。	日常的にユニット間での連携が行われている体制であり、申し送りや職員会議はユニット合同で行われており、管理者を通じて、職員からの意見等がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、毎年度の職員面談の機会もつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に業務の担当を持ち定期的にその評価を行いやりがいや向上心をもてる環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得や毎月の研修で職員の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	デイと共同し外部研修を行い、交流を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談で本人・ご家族・関係先から情報集め、ニーズを引き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談で本人・ご家族・関係先から情報集め、ニーズを引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談の際、ニーズの種類など他のサービスも含めフラットな心構えに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	第二の家族として寄り添う心に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に極力面会に来てもらうよう依頼し、ご家族の関係を良好にするべく努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	甚目寺観音や地域の散歩でご近所との交流に努めている。	利用者の中には、かつての親会社の工場の職員であった方との交流が行われており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族と行きつけの喫茶や美容院等に出かけたり、時には自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常に全体を見て孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向に添えているか評価を行っている。困難な場合は、意向を汲み取れるよう検討している。	職員間で担当制も活用しながら利用者の把握が行われており、担当者による毎月のモニタリングを通じて、利用者の意向等の把握につなげている。また、職員間で毎月のカンファレンスが行われており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面談の際、情報を取り個人ファイルに保管し職員が見られる状態にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態観察を行い、変化を記録し周知するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	適時、話し合いの場を持ち、定期的なプラン作成・見直しをしている。	介護計画の見直しについては、現状、1年から2年で行われているが、モニタリングを職員間で毎月実施していることで、変化に合わせた見直しや対応が行われている。また、会議計画を職員間で回覧することにより、職員間での共有につなげている。	モニタリングについては、担当制も活用しながら毎月の実施が行われているため、介護計画の見直しについても、現状よりも短期間での見直しの実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	そのつど、変化を職員間共有し適宜、プラン見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	施設として地域の方やご家族・関係者との間で何が出来るのか検討し、模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	甚目寺観音のお参りや地元の喫茶店などで楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	提携医との毎月の往診をお願いしており、医療の面で適切な医療を受けられるよう支援している。	協力による定期的な訪問診療が行われており、現状、全員の利用者が協力医をかかりつけ医としているが、他の医療機関への受診等の対応が家族により行われている。また、ホームには看護職員が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師がおり、身体管理をしており適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期は契約時にお話している。看取りに向けた話は段階的に話しし提携医と取り決めしている。	看取り支援にも前向きな対応が行われており、開設以来、利用者の看取り支援が行われている。家族とも、身体状態等の段階に合わせた話し合いが行われており、協力医による説明も加えながら、意向に合わせた対応に取り組んでいる。	前回の看取り支援から、ホーム管理者、計画作成担当者をはじめ、職員体制が変更になっており、職員への研修指導についても課題でもある。今後のホームの前向きな取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応は消防隊に指導して頂いている。リスクマネジメントの研修を会社単位で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との協力体制は無い	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われており、職員間の連携に取り組んでいる。備蓄品等については、関連のデイサービスに確保されている。地域の方との協力関係については、継続的なテーマでもある	地域の方との協力関係について、継続的な取り組みに期待したい。また、水害のリスクがある地域でもあるため、水害に関する検討についても取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を得て職員は対応している。	理念の中に職員指針が掲げられており、職員間で理念の唱和を行うことで、利用者を尊重した対応を行うように取り組んでいる。対応が困難な利用者についても職員間の連携や検討に取り組んでいる。また、接遇面での職員研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	心がけ働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来ないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の尊重は大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや後片付けなど出来る方はして頂いている。	食事の提供については、外部業者からの提供を受けており、ホームでは主に盛り付け等を行っている。ホームでも行事等に合わせた食事作りやおやつ作りが行われている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量が減退したら補助職員を対応したり、最低限の水分量は摂取して頂き、個々に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々に合わせ観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ADLの状態を観察し適宜、見直しを行っている。	個人記録と利用者全員の排泄チェックを行っており、日常的な申し送り等を通じて、職員間の情報の共有につなげている。排泄の間隔に合わせた声掛け等を通じて、排泄状態が改善した事例もある。また、看護職員による医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や乳飲料等を用意し、しっかり取ってもらうよう行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	出来ていない	現状、週2回の午前の時間の入浴となっている。フロア毎に週4日の入浴の準備が行われており、ユニット間での連携も行われている。重度の方に合わせた機械浴の対応や職員複数での対応も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを整えるため、日中適度な運動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が管理しているが、研修で職員の周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	希望に沿い極力行っている。	日常的に外出の機会をつくるようにしており、買い物の機会をつくったり、関連のデイサービスの行事に出かける取り組みが行われている。また、季節に合わせた花見等の外出支援や外食に出かける取り組みも行われている。	外出行事については、全員での外出を基本に考えているが、外出が困難になっている方も生活していることもあるため、少人数での外出の機会をつくる取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理が可能な方は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯持参され支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある作品作りを職員と行っている。	ユニットが平面でつながっており、利用者がユニット間を移動できることで、日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、畳ルームがあり、日中を過ごしている方もいる。また、利用者の作品や行事での写真の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性を考慮し席の配置や他の方と話せるよう指導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大事にしている茶器など置いて頂いたり、生活感のあるお部屋いして頂いてる。	居室には、利用者の希望にも合わせながら様々な落ち込みが行われており、入居前から使用していた道具類も持ち込まれており、利用者に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者に合わせたベッド以外での生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線を確保し、転倒しえる障害物は取り除くよう努めている。		